

雲仙岳における全磁力観測 (1995年2月~1995年5月)*

Observation of Geomagnetic Total Force
at Unzen Volcano
(February 1995 ~ May 1995)

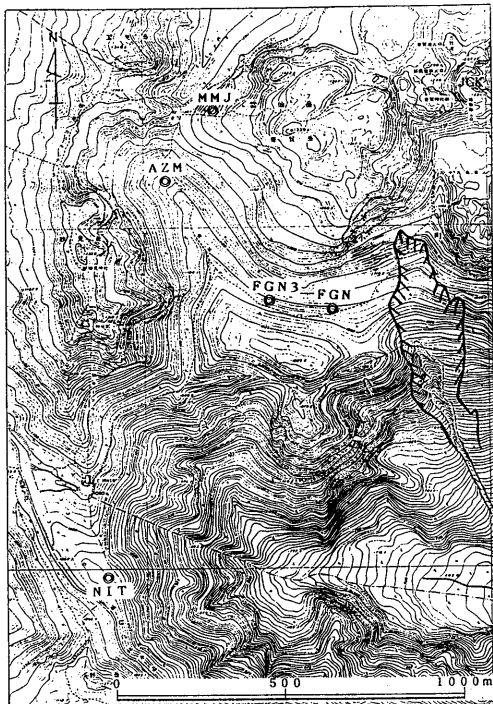
気象庁地磁気観測所
Kakioka Magnetic Observatory of JMA

地磁気観測所は、1991年2月18日から雲仙岳及びその周辺で地磁気全磁力連続観測及び全磁力繰り返し観測を行っている。今回は1995年5月までの結果について報告する。

第1図に全磁力連続観測点(普賢岳(FGN), 普賢岳南3(FGN3), 紅葉谷(MMJ), 薊谷(AZM), 仁田峠(NIT))の配置図及びFGN観測点東側で崖崩れが発生し大規模な沢になった領域(実線で囲った部分)を示す。

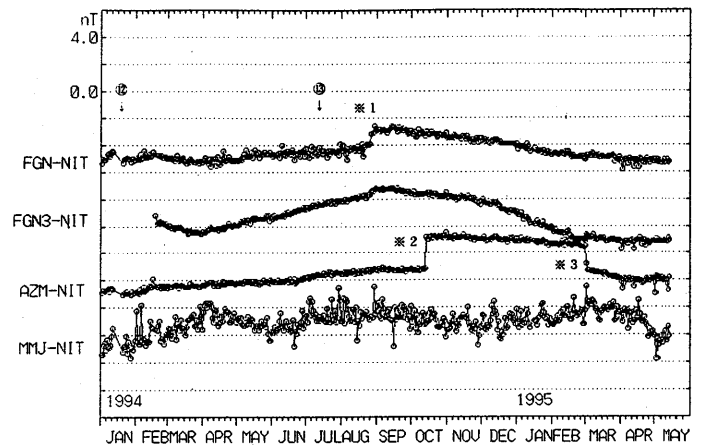
第2図には、1994年1月から1995年5月までのNITを基準とした各連続観測点における相互差(全磁力夜間値00~02時、地磁気観測所鹿屋出張所の3成分(H, D, Z)で外部磁場擾乱の影響を補正したもの)の時間的变化を示す。1994年6月から1995年1月までについては前号で述べた¹⁾。1995年2月以降の各観測点のデータを見ると、FGN-NIT, FGN3-NIT, AZM-NITの変化は横ばい状態が続いている。

MMJ-NITは4月から5月にかけて約2nTの減少が見られるが、この原因は火山活動によるものか不明である。



第1図 雲仙岳における全磁力連続観測点分布及び崖崩れが発生し大規模な沢になった領域(実線で囲った部分) 普賢岳南(FGN), 普賢岳南3(FGN3), 薊谷(AZM), 紅葉谷(MMJ), 仁田峠(NIT)観測点。

Fig.1 The distribution of the continuous observation points of the geomagnetic total force at Unzen Volcano and the area of the landslide (enclosed by a solid line).



第2図 仁田峠(NIT)を基準とした各全磁力観測点における相互差(全磁力夜間値00~02時、地磁気観測所鹿屋出張所の3成分(H, D, Z)を用いて外部磁場擾乱の影響を補正したもの)の時間的变化。

↓印 溶岩ドーム確認

※1 崖崩れ部を火砕流が流れ崖崩れが発達した影響

※2 薊谷(AZM)のセンサーが倒木により傾いたために生じたもの

※3 薊谷(AZM)のセンサーを再設置したために生じたもの

Fig.2 Variation in the differences of the night-time geomagnetic total force between FGN and NIT (FGN-NIT), FGN3 and NIT (FGN3-NIT), AZM and NIT (AZM-NIT), and MMJ and NIT (MMJ-NIT). The effect of the external geomagnetic variations was corrected using the three (H, D, Z) components of the geomagnetic field at Kanoya.

↓ : extrusion of a lava dome.

※1: Change in the geomagnetic total force at FGN due to landslide.

※2: Change in the geomagnetic total force at MMJ caused by tilt of the sensor due to a fallen tree.

※3: Change in the geomagnetic total force at MMJ due to the re-setup of the sensor.

参 考 文 献

1) 地磁気観測所(1995): 雲仙岳における全磁力観測(1994年6月~1995年1月), 噴火予知連会報, 61, 67-68.